

令和6年度「熊野町総合教育会議」会議録

日 時 令和6年5月7日（火）午後2時30分～午後3時50分

場 所 熊野町役場 3階301会議室

出席者 三村町長

平岡教育長、大竹委員、佛圓（悦）委員、佛圓（弘）委員、植松委員

事務局 西岡総務部長、佛圓総務部次長

立花教育部長、須賀教育部次長、梶教育指導監、南崎課長補佐、中村主任指導主事、高木主査

次 第

1 開会

2 熊野町長あいさつ

3 議題

（1）令和5年度 教育部の主要事業について

（2）令和5年度における児童生徒の状況について

（3）令和6年度 教育部の主要事業について

（4）その他

4 閉会

議事概要

（1）令和5年度 教育部の主要事業について

事務局から内容説明

主な質疑

○ 特になし

（2）令和5年度における児童生徒の状況について

事務局から内容説明

主な質疑

○ 学力向上に向けた取組について

【委員】全国学力・学習状況調査において、中学校の数学が課題と感じている。資料にあった年間3回の推進協議会には、中学校の教員も参加しているか。また、推進協議会の内容としては発問研究が主体と思われるが、どのような成果があったか。

（事務局）推進協議会には、中学校の教員も参加している。また、「本質的な問い」の成果については、単元を貫く問いを通して、授業の中で児童生徒に付けさせたい力を教員が考える習慣が身に付きつつあると考えている。

【町長】全国学力・学習状況調査の結果では、全国・県平均と同程度か上回っている状況にあるが、平成30年7月豪雨災害前の成績に戻っていないと感じている。平均通過率の押し上げには、ある程度の時間を要するため、県内や安芸郡内の状況も踏まえながら、3～4年のスパンで考え、平成30年7月豪雨災害前の水準に戻るよう取組を進めてもらいたい。

（3）令和6年度 教育部の主要事業について

事務局から内容説明

主な質疑

○ コミュニティ・スクールの推進について

【委員】町内小中学校で活発に会議が開催されているが、校内だけで地域との連携を進めるのは閉塞化することが懸念されるため、可能であれば、町の喫緊の課題である防災・減災や中学校の部活動指導者の育成などについて、筆の里工房北側の（仮称）筆の里創造の丘公苑を拠点として、課題別に合同研修会を実施することを提案する。国が進めるウェルビーイングの向上による「こどもまんなか社会」の実現に向け、（仮称）筆の里創造の丘公苑は、これからも町が発展していくための拠点となる場所であり、この拠点で課題別の合同研修ができれば、各学校のコミュニティ・スクールもさらに活発になるのではないかと考えている。

【教育長】先般開催した教育協議会（学校、保育所・幼稚園、社会教育施設の関係者による会議）において、つながりをテーマに協議を行ったところであり、町内関係者が子どもを中心に据えながら連携することが重要と考えている。また、今年度は熊野中学校区で「シビックプライド」をテーマに探究的な学びについて広島県教育委員会指定事業を受けており、（仮称）筆の里創造の丘公苑をきっかけとして熊野町のまちづくり等について学習することで子どもたち自身が持続可能なまちづくりについて主体的に考えることができると思っている。

コミュニティ・スクールについては、各学校運営協議会の横のつながりを持つことが重要であると考えており、連合会のような場を設置してそれぞれの実践や課題等を共有する取組を行いたいと考えている。

○ 児童生徒の主体的な学びを促す授業改善の推進について

【委員】学力向上に向け、「がんくまプロジェクト」などにおける具体的な取組があれば伺いたい。

【教育長】令和5年度全国学力・学習状況調査において算数・数学に課題があったため、小学校の高学年の教員や中学校の数学科の教員に対して研修を実施した。今年度は、熊野第三小学校のチャレンジ加配教員を中心に、児童生徒の主体的な学びについて、児童生徒の選択肢のある授業をテーマとした取組を全小中学校に波及させていきたいと考えている。

○ 地域・学校協働活動の推進について

【町長】「広島版学びから始まる地域づくりプロジェクト事業」として、防災をテーマに事業を行う予定とされているが、今年度は町の総合防災訓練を実施する予定としているため、取組に齟齬が出ないように進めてもらいたい。

【教育長】「広島版学びから始まる地域づくりプロジェクト事業」では、公民館を核として地域住民の参画意識を高めるテーマとして防災を挙げているため、関連性を持たせた取組としたい。

○ 学校給食の食缶方式への移行について

【町長】食缶方式への移行について、今後の予定を伺いたい。

（事務局）令和7年の秋から食缶方式へ移行することを目標として業者選定の準備を進めるとともに、学校等との準備委員会を立ち上げ、円滑な移行に向けて検討していくこととしている。

○ 図書館におけるイベントの相互交流について

【委員】図書館では様々なイベントが開催されているが、これを保育所・幼稚園へ出向いて出前講座

のような形で行うことや、保育所・幼稚園が図書館へ行って発表することなど、相互に交流ができるような仕組みを検討していただきたい。また、保育所・幼稚園や小中学校の要望に応じて、年に数回程度おでかけ号の臨時便を検討いただきたい。

(事務局) 様々な施設が連携・交流することは重要であるため、移動手段もあわせて検証しながら、よりよい仕組み作りを検討していきたい。

(4) その他

主な質疑

○ 児童生徒の不登校について

【委員】議題2に関連した内容として、児童生徒の不登校が増加していることを懸念している。不登校の状況について、傾向を伺いたい。また、不登校といじめとの因果関係が強いと感じているがどのような状況か。

(事務局) 小学校で不登校傾向の児童については、中学校でも不登校傾向が継続する状況はある。一方で中学校では進路を意識し始める3年生になるタイミングで学習に前向きになったり、教室に復帰できたりする生徒が増える実態があり、キャリア教育などを通じて将来に希望を持たせることも学校の指導として大切であると考えている。また、不登校の要因としてはいじめも考えられるが、教室復帰に向けて段階を踏みながら解消していく取組を進めている。

【町長】不登校の定義や取組はどうか。

【教育長】不登校を理由に年間30日以上欠席した場合に不登校としている。年間を通じてすべて欠席している児童生徒はほとんどいない状況である。中学校では、教室に入れない生徒のためにSSR(スペシャル・サポート・ルーム)を設け、生徒が学校や社会とのつながりを維持するとともに少しでも学校に来て学びを進めるための環境を整備しているところである。また、授業の様子をオンラインで配信し、SSRでタブレットを使用して授業を受けることにも取り組んでいる。

【委員】資料の項目の中で、不登校とその他(問題行動)が相関関係にあるように感じるが、その他(問題行動)の内訳を伺いたい。

(事務局) 中学校のその他(問題行動)には、自転車による交通違反等が含まれているため多くなっている。

【町長】授業中に騒いだり大声を出したりすることは、問題行動に含まれるか。また、その場合のサポート体制は整っているか。

【教育長】直ちに問題行動としては捉えないが、継続する場合は特別な指導を行うため問題行動として含まれる場合もある。授業中の事案に対する校内でのサポート体制は整っている。

○ 筆の里工房開館30周年記念展覧会について

【町長】今年度は筆の里工房が開館30周年を迎えるため、「定家様が伝えた文化ーそうだったのか、藤原定家さんー」をテーマに藤原定家の展覧会が開催される予定であり、小学4年生から中学1～3年生を招待することとしている。国宝も展示されるためこの機会に児童生徒にも触れていただきたいと思っている。

委員の皆さんにも、ぜひご協力いただきたい。

以上